

# 地域の活性化を目指すクリエイティブ・ダンスプロジェクト

## 日本身体表現学協会

### 活動の目的

現在メディア環境の高度な進展を背景として、身体的体験の欠如や人間関係の希薄化が社会の大きな問題として指摘されている。本プロジェクトにより、地域の人々の身体的・対面的コミュニケーションや異世代間交流の活性化、また、激変する社会で生じる様々な課題を主体的に解決するために必要な若者の創造力、思考力、言語的/非言語的表現力の育成を目指した。

### 活動の内容及び経過

本プロジェクトでは、以下2名の講師によるクリエイティブ・ダンスワークショップを開催した。

#### 「即興表現を目指したリズム系ダンスの指導法

～動きの貯金箱を活用して～

講師：高田康史（広島文化学園大学）

日時：12月21日（土）15:20～16:40

12月22日（日）9:30～10:50

場所：岡山シンフォニーホール

大ホール・イベントホール・スタジオ1

内容：“リズム系ダンスの指導法”について、“即興表現”に着目し、新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」にアプローチした。また、ワークショップの内容を22日にはショーイングという形で大ホールにて披露を行った。

#### 「発表作品を目指したリズム系ダンスの指導法

～動きのくずしを活用して～

講師：近江望（吉備国際大学）

日時：12月21日（土）15:20～16:40

12月22日（日）9:30～10:50

場所：岡山シンフォニーホール

大ホール・イベントホール・スタジオ1

内容：学習発表会や運動会作品発表をする機会に生かせるような“リズム系ダンスの指導法”について考えながら、軽快なリズムに乗って全身で踊る“リズム系ダンス”のルーティン作りに挑戦した。また、ワークショップの内容を22日にはショーイングという形で大ホールにて披露を行った。

### 活動の成果・効果

本活動を通して、以下の成果・効果が得られたと考える。

#### ①身体表現文化の活性化

馴染みの薄い創造的なダンス活動を体験することにより、



ダンスに対する心理的な敷居が低くなり、身近なものとして捉え親しむ機会となった。

#### ②イベント企画・運営能力の向上

教員養成機関に所属する学生が主体となり、イベントを立案・実施することで、地域を引っ張っていく資質を育てると共に、地域愛を育むことができた。また普及啓発などアート・マネジメント全般に関する実践的スキル習得に繋がった。

#### ③対人コミュニケーションスキルの向上

イベントの企画・運営に携わる者は、活動の過程において他者と協働するために必要なコミュニケーション能力を育むことができた。

ワークショップの参加者においても、普段のコミュニティを超えた身体を介する交流を行うことで、コミュニケーション能力の向上に繋がったと考える。

### 今後の課題と問題点

今回の活動を経て最も困難さを感じた点として、ダンスに親しみのない層に対するアプローチの方法が挙げられる。メディアの普及により今日人気を博している「エンタメダンス」の印象により、ダンスに対する技術指向的考えが広まっており、ダンスを苦手とする人は少なくない。できないといった指向に捉われない身体表現を扱う我々にとって、ダンスに対する価値観を変え、どんな人でも参加することができる場づくり、広報活動は今後の大きな課題である。

●代表者：酒向治子 ●所在地：岡山市北区津島中  
●TEL：086-251-7667 ●E-MAIL：sakou-h@okayama-u.ac.jp  
●設立年：2017年 ●メンバー数：40名